

# 北京大学図書館古籍善本閲覧室蔵『兒女英雄傳』版本について

## —2002年度調査結果—

藤田 益子

1. はじめに
2. 『兒女英雄傳』の版本に関する研究
3. 問題点
4. 北京大学図書館古籍善本閲覧室所蔵『兒女英雄傳』版本
5. 小 結

### 1. はじめに

これは、北京大学図書館古籍善本閲覧室蔵の『兒女英雄傳』の版本について、2002年7月、8月に、調査した結果をまとめたものである。

清代の北京語彙研究のために、言語資料としての『兒女英雄傳』の版本を整理し、今後の中国語研究に活用することを目的とした作業の一環である。

### 2. 『兒女英雄傳』の版本に関する研究

太田（1993）では、「訓詁と校勘」において『兒女英雄傳』の早期の版本について次のように解説している。

#### [抄 本]

刊本とは別に、早期の抄本が北京図書館で発見された。この小説の最も早い形態を知る手がかりを提供するものらしい。現在は、影印公刊を待つしかない。

#### [光緒四年刊本]

現在、最も早い時期の刊本と言われるのが、光緒四年（1878）北京聚珍堂書坊から刊行された木活字本である。誤りが多く、善本とはいえない。

#### [申報館本]

上海申報館本から、おそらく光緒四年に、鉛印本が出ている。回首の詞に、「調寄西江月」の五字が加えられている。孫楷第『中国通俗小説書目』に「劣」と決め付けられた。

しかし、これは、光緒四年刊本を継承する善本である。その理由として、抄本及び、光緒

四年本のみに見える特徴としてあげる“寶子”（“寶貝”の意）の語が申報館本にも同様に使われていること等が挙げられる。

#### [光緒六年刊本]

董恂の評を本文中に割り込ませ、光緒六年に同じ聚珍堂から刊行された評本である。誤字もあるが、四年本より少ないようである。影印がないため、次の二著によることになる。

- ・人民文学出版社本『兒女英雄傳』松頤校注 1983年
- ・斎魯書社本『還読我書室主人評 兒女英雄傳』爾弓校釈 1989年

#### [蜚英館本]

石印、有評、有句読。毎回二葉の絵図がある。第一の図に“光緒十三年歲次丁亥秋日，上元柳溪陳作梅，繪於蜚英館”と記す。文字は極めて誤りが多い。北京図書館に蔵するというがその他は余り見かけない。句読がついて読みやすいこと、及び聚珍堂の誤りを訂正している所が多いことが特徴である。しかし、この作業を通じて、句読をつけ間違えたり、字句を臆改してしまった点が少なくない。

#### [亜東本]

後に、これを新式標点化し、董評や絵図などを除いたものが亜東図書館本として、出版された。胡適、汪原放の校読後記がある。1925年排印本。民国期の鉛印本はほとんどこれによる。

### 3. 問題点

現在、存在の確認されている早期の版本については、ここに述べられている通りである。今の時点では、[光緒四年刊本]が最も初期に刊行された版本とみなされている。更に、古いものとして、ここで触れられている[抄本]については、斎魯書社本の後記でもその存在が指摘されていたが、これまで、実際に内容を見ることは出来なかった。

そこで、2001年9月、北京図書館（現在は国家図書館）において、その抄本の存在を確認し、[抄本]、[光緒四年刊本]、[光緒六年刊本]の一部の語彙に関する比較対照作業を行った。その結果、使用している語彙に関しては、やはり、[抄本]は[光緒四年刊本]の方に近いという結論を得た。だが、これらの版本のうち、三者または、二者で使用されている語彙に対立がある場合、必ずしも、[抄本]と[光緒四年刊本]との間で完全に一致しているというわけではなく、また、こうした対立のある語彙について、汎用性の観点からみると[光緒六年刊本]の方が、僅かに高いということも分かった。

ここまでの研究では、まだ[抄本]の書かれた年代がいつ頃なのか、特定するまでには至っていない。更に、北京語の語彙を研究する際、いずれの版本の語彙に拠ることが最善の策なのか、つまり、語彙研究の資料として最良の善本と言えるのは、現段階で、果たして[抄本]

なのか、それとも、[光緒四年刊本] や [光緒六年刊本] なのか、という最も重要な問題に解決を見ていないのである。

こうした問題を解決するために、改めて、現在、閲覧可能な刊本について整理をし、[光緒四年刊本] と [光緒六年刊本] の位置付けを再確認すると共に、これらの資料を中心に、刊本間に生ずる語彙の差異の問題を考え直して行きたいと思う。

そこで、まず、今回は、2002年の調査結果に基づき、北京大学図書館古籍善本閲覧室が所蔵する『兒女英雄傳』版本について内容を整理する。

北京大学図書館古籍善本閲覧室の所蔵する『兒女英雄傳』について、現在までに把握できたものを以下に挙げる。

#### 4. 北京大学図書館古籍善本閲覧室所蔵『兒女英雄傳』版本

図書カードについては、北大書名目録、北大善本特蔵目録、馬氏特蔵書名片の三種類の場所から、『兒女英雄傳』に関する版本のカードの存在を確認できた。

以下、配列の順番は、版本の整理番号の若い順に従った。

(1)

[整理番号]

813. 337
0000
: 1 C 1
: 2 C 1

[図書カード]

馬氏特蔵書 No49 00433.1 00433.2

[刊刻・印刷の情況]

『兒女英雄傳評話』四十回

京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 木活字

[刊行時期]

光緒四年歲次戊寅孟秋校字 (1878年)

[著者名]

燕北聞人原本吾了翁重訂

[批点]

無評

[行格]

每半葉十行、行二十二字

[辺欄]

四周双辺

[冊子形式]

十冊 二函

[特徴]

- ・量は多くないが、朱筆による校勘がある。  
例：第九回二葉表九行 到〔今〕年  
第九回四葉表三行 兒〔阿〕我
- ・四十回七十九丁（巻末）に、2つの読書印がある。  
「己卯閏月十二日人迷閒心讀」、「庚辰四月初三日人迷閒心讀」。
- ・四十回七十九丁（巻末）に、朱筆で「民國十九年三月六日平妖主人讀過一遍」の書き込みがある。
- ・光緒郊年日人閒心發文三氏 己桃迷輝貢置」の朱印が、初回を除く各巻頭にある。

(2)

[整理番号]

□ 813. 337
0000
: 1
: 2
: 3
: 4

[図書カード]

北大善本特蔵目録 No.13

[刊刻・印刷の情況]

『兒女英雄傳評話』四十回

京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 木活字

[刊行時期]

光緒四年歲次戊寅孟秋校字（1878年）

[著者名]

燕北閒人原本吾了翁重訂

[批点]

有評、有標点。（筆記）

[行格]

每半葉十行、行二十二字

[辺欄]

四周双辺

[冊子形式]

二十四冊 四函

[特 徴]

- ・天頭に毛筆による批評と、標点のある批点本である。
- ・また、校勘の形跡もあり、校本である可能性もある。
- ・四十回巻末に董恂の朱印がある。

(3)

[整理番号]

813. 337
0000
C 2 : 1
C 2 : 2

[図書カード]

馬氏特蔵書 No.49

[刊刻・印刷の情況]

『兒女英雄傳評話』四十回

京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 木活字

[刊行時期]

光緒六年歲次庚辰孟秋校字（1880年）

[著者名]

燕北閩人原本 吾了翁重訂 還讀我書室主人評

[批 点]

有評

[行 格]

每半葉十行、行二十二字

[辺 欄]

四周双辺

[冊子形式]

二十冊 二函 雙匣

[特 徴]

- ・序一葉表に馬廉蔵書印がある。
- ・本文中に、2行で評が割り込ませてある。

(4)

[整理番号]

813. 337
0001
: 1 -
: 2 -

[図書カード]

馬氏特蔵書 No49 00434.1 00434.2

[刊刻・印刷の情況]

『繪圖兒女英雄傳』四十回

(木活字)

[刊行時期]

光緒壬辰刊(光緒十八年/1892年)

[著者名]

燕北閩人原本

[批点]

有評

有繪図

[行格]

每半葉十行、行二十二字

[辺欄]

左右双辺

[冊子形式]

二十冊 二函

[特徴]

- ・首回縁起の一葉二葉、第十一回十二葉、十三葉などには、繪図が有る。
- ・出版元の記述はない。
- ・繪図を差し込んである以外、本文の文章部分の版式に関しては[光緒六年刊本]と全く同じで、一見非常に良く似ている。しかし文字(活字)が異なる部分もあるので、全く同じ版ではないことが分かる。
- ・また、[光緒六年刊本]の目録の後ろに見られる「聚珍堂版書目」が刷られた葉もない。

(5)

[整理番号]

813. 337
0003

[図書カード]

北大書名目録 No.96

[刊刻・印刷の情況]

『全圖足本正編兒女英雄傳評話』正編 十二卷 四十回  
續編 四卷 三十二回

上海啟新書局出版

[刊行時期]

民國十二年春三月（1923年）

[著者名]

燕北閒人著

[批点]

無評、有標点（。）。

有絵図

[行格]

每半葉十五行、行三十一字

[辺欄]

単辺

[冊子形式]

十六卷 四函

[特徴]

- ・版心の中縫に「圖第首回」、「圖第一回第二回」と書かれ、卷頭に絵図の葉が差し込まれている。
- ・特に北京大学のもの以外、蔵書印などは見られない。

(6)

[整理番号]

813. 337
0004

[図書カード]

北大書名目録 No.96

[刊刻・印刷の情況]

『俠女奇縁』四十回

上海蘇報館刊印

[刊行時期]

光緒戊戌年仲秋（光緒二十四年／1898年）

[著者名]

燕北閒人原本吾了翁重訂

[批点]

無評。有標点（、）。

[行格]

每半葉十五行、行三十六字

[辺欄]

四周双辺

[冊子形式]

八冊 一函

[特徴]

- ・ 卷首 縁起首回 一葉表に『小自在』の蔵書印有り。
- ・ 書扉の裏面に、『是書筆法不淺不深雅俗可以共賞且敘事描情時若春山平遠時若秋壑聳奇實是今人拍案叫絶光緒廿三年三月廿五日起隨報附送』との筆記がある。

(7)

[整理番号]

813. 337
0000.5

[図書カード]

北大書名目録 No.96

[刊刻・印刷の情況]

『繪圖正續兒女英雄傳』四十回

[刊行時期]

光緒壬辰刊（光緒十八年／1892年）

[著者名]

還讀我書室主人

[批点]

有評、有標点（。）。

有繪圖

[行 格]

每半葉二十九行、行六十八字

[辺 欄]

四周双辺

[冊子形式]

八卷 三函

[特 徴]

- ・第一巻表紙と縁起一葉に蔵書印がある。
- ・絵ははっきりしていて、見やすい。
- ・出版元の記述はない。<sup>ii</sup>

(8)

[整理番号]

X
813. 337
0000.6
C2 : 1

[図書カード]

所在不明。

[刊刻・印刷の情況]

『兒女英雄傳評話』四十回

京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌

[刊行時期]

光緒四年歲次戊寅孟秋校字（1878年）

[著 者 名]

燕北間人原本吾了翁重訂

[拠 点]

無評

[行 格]

每半葉十行、行二十二字

[辺 欄]

四周双辺

[冊子形式]

二十四冊四函

[特 徴]

・書扉の裏側に、『孫子書先生（楷第）送給我的。廿，四，十四，胡適』の筆記が有る。

[帙の張り紙について]

- ・帙に『申報館兒女英雄』の張り紙が有る。
- ・版式、更には活字の形までが、[光緒四年刊本]に同じである。
- ・太田（1993）によると、『申報館本』には回首に「調寄西江月」の五字が加えられているとされているが、この版本には、見当たらない。また、同書に紹介されている『兒女英雄傳』申報館本書扉や縁起首回の写真とも、異なるものである。
- ・太田（1994）では、『申報館本』について、「光緒四年刊本は、その後、まもなく上海申報館から鉛印本として刊行された。この本は書扉裏に“上海申報館仿聚珍版印”とするのみで、刊行の時期を記さない。」と述べている。ここにいう書扉裏の“上海申報館仿聚珍版印”もこの版本には見当たらない。

(9)

[整 理 番 号]

X
813. 337
0000.9

[図書カード]

北大書名目録 No.96

[刊刻・印刷の情況]

『繪圖評點兒女英雄傳』四十回

上海蜚英館石印

[刊 行 時 期]

光緒戊子年四月（光緒十四年／1888年）

[著 者 名]

著者名は見当たらない。

[批 点]

有評、有標点。

有絵図。

[行 格]

每半葉十六行、行三十六字

[辺 欄]

四周双辺

[冊 子 形 式]

十二冊 一函

#### [特 徴]

- ・一冊目の表紙に次の筆記がある。「蜚英館（1888）石印本的兒女英雄傳四十卷。價三元。此書在清代小説中算是晚出的佳作了。但他偏要自於清初，這裏面的觀鑑与吾了翁兩序最是害人。此本又光緒戊寅（1878）馬從善的序，最有用處。十，三，七，胡適。」
- ・更に、12冊目の最終葉、第四十回終葉の前に、「民國十年，四月八日，看一遍。我第一次讀此書時、似乎在上海南市公家油棧内，約在光緒卅年。胡適。」の筆記が有る。
- ・書扉に朱印が有る。
- ・太田（1984）には、「光緒十四年には、上海の蜚英館から、石印本が出版された。毎回初めに挿絵二葉、その首葉に“光緒十三年歲次丁亥秋日上元柳溪陳作梅繪於蜚英館”と署する。計82幅。（平凡社版『中国古典文学大系卷47』に収録してある）」との解説がある。

#### 5. 小 結

『北京大學圖書館藏古籍善本書目』北京大學圖書館編などにも、一部の蔵書が収録されているが、『兒女英雄傳』に関しては、収録数はさほど多くない。これまでの北京大學図書館での調査においては、カードに記載されていない版本が存在する、同じ種類の刊本が二セット存在する等の問題に遭遇した。

当初は複数の版本を、同時に並べて閲覧することが出来なかったため、数回に渡る調査の中で、徐々にその存在や状況を確認するに至ったものが多い。

更に、図書カードについては、北大書名目録、北大善本特蔵目録、馬氏特蔵書名片の三種類の場所から、『兒女英雄傳』に関する版本を見つけることが出来たが、このように、カー

<注>

- i この結果は、2002年5月「漢語史・敦煌学国際学術研究討論会」（於：杭州市）において、発表した『関与「兒女英雄傳」的抄本－從語彙方面的考察－』にまとめてある。
- ii 『繪圖正續兒女英雄傳』という書名の版本は、現在管見の及ぶところでは、二種類。
  - ① 『繪圖正續兒女英雄傳』十六卷 上海広益書局石印本（遼寧省図書館蔵）
  - ② 『繪圖正續兒女英雄傳』正四十卷 上海大成書局 1923年 石印本（京都大学文学部）

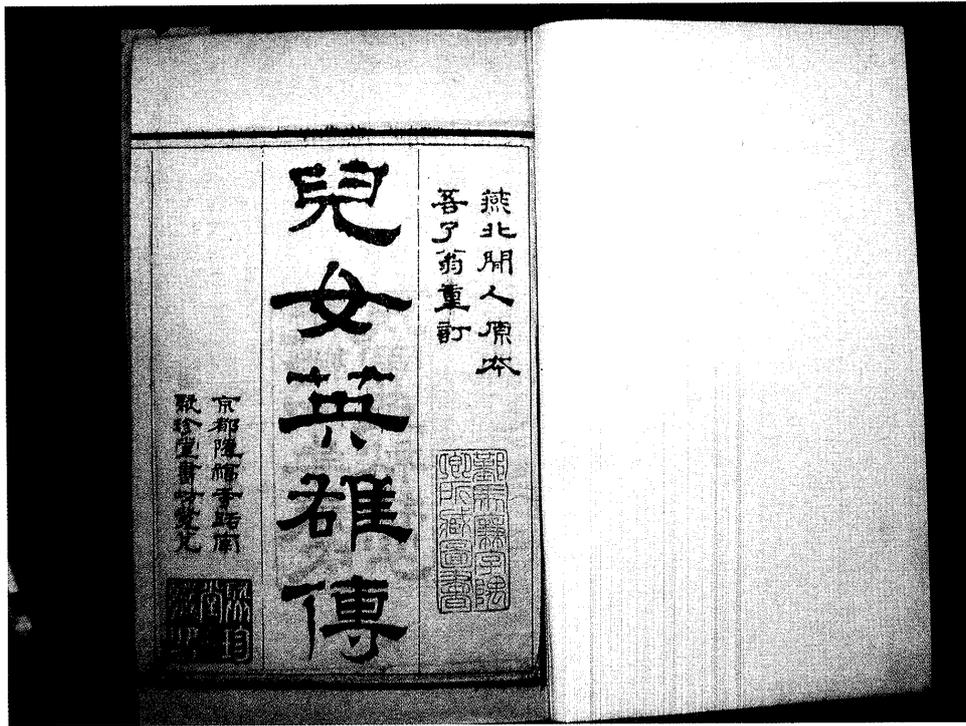
刊行年からみると、書扉に、光緒壬辰刊（光緒十八年／1892年）とあるので、①の可能性はあるが、現段階では、確認できておらず、刊行元は特定出来ていない。

<参考文献>

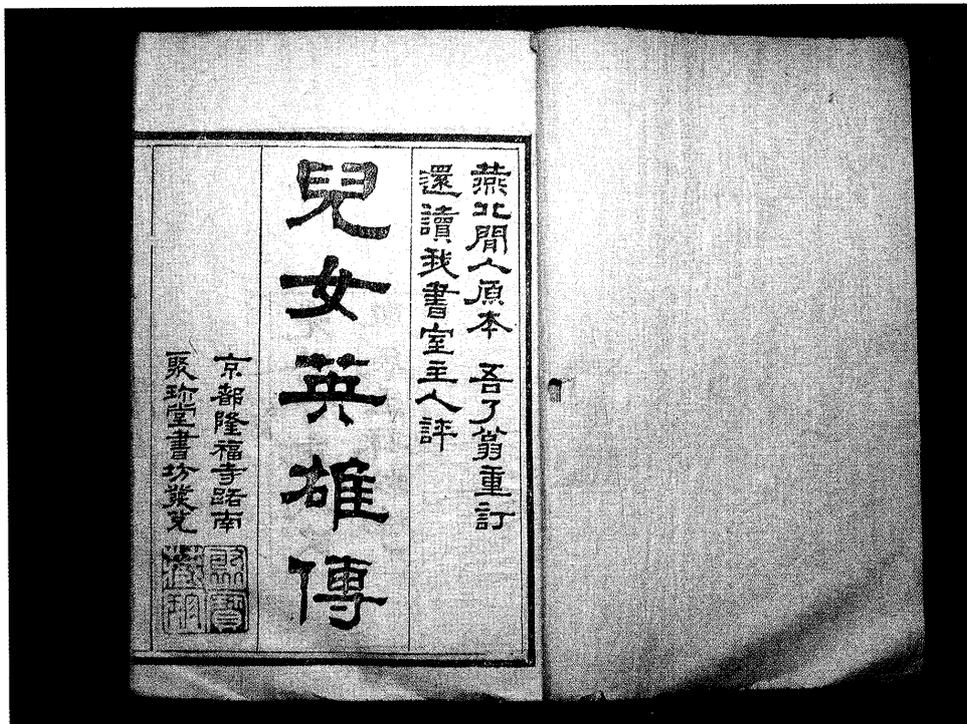
- 太田辰夫 1984 『『兒女英雄傳』校読雑記』 『東方』44号 11月  
（太田辰夫著 1995年 「中国語文論集 文学篇」 汲古書院 に収録）
- 太田辰夫 1993 「訓話と校勘」  
（太田辰夫著 1995年 「中国語文論集 語学篇・元雜劇篇」 汲古書院 に収録）
- 陳国慶 1984 「漢籍版本入門」（沢谷昭次訳） 研文出版
- 文康作 立間祥介訳 1971 「兒女英雄伝」（中国古典文学大系卷47） 平凡社

<補>

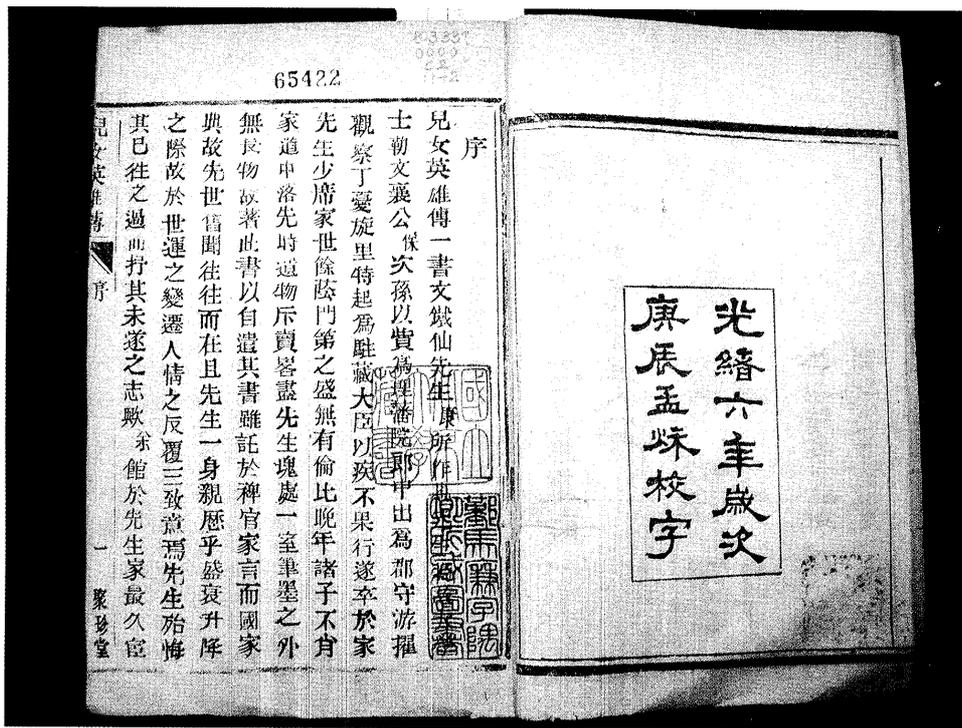
今回、特別に、書扉などの撮影が許可された。以下、その中の一部を紹介する。



(1) 『兒女英雄傳評話』四十回  
 京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 光緒四年歲次戊寅孟秋校字 木活字  
 書扉 (表)

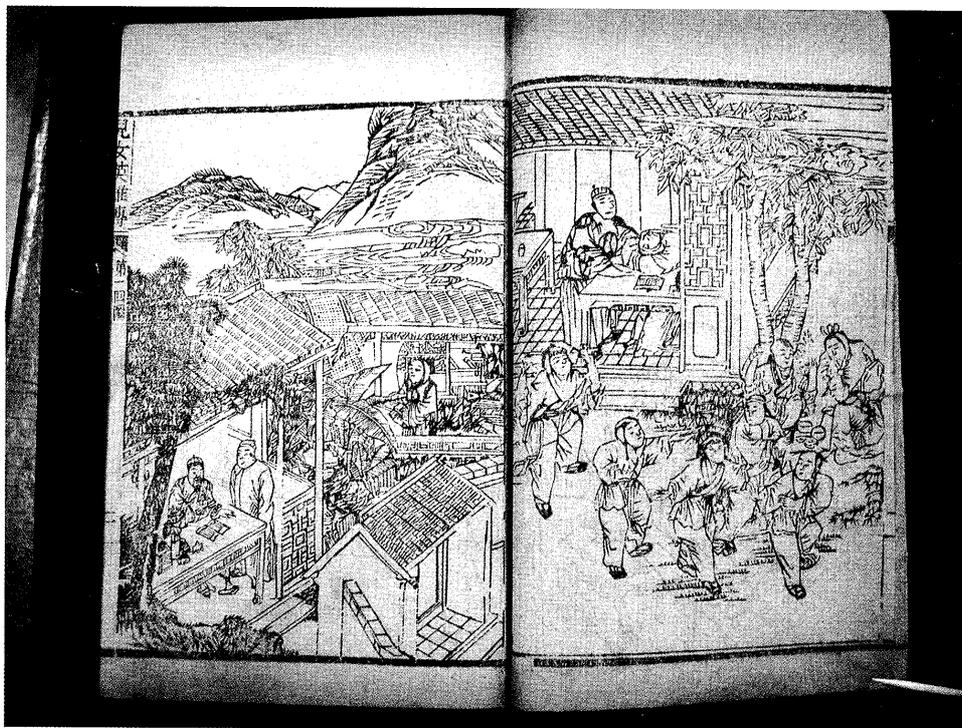


(3) 『兒女英雄傳評話』四十回  
 京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 光緒六年歲次庚辰孟秋校字 木活字  
 書扉 (表)



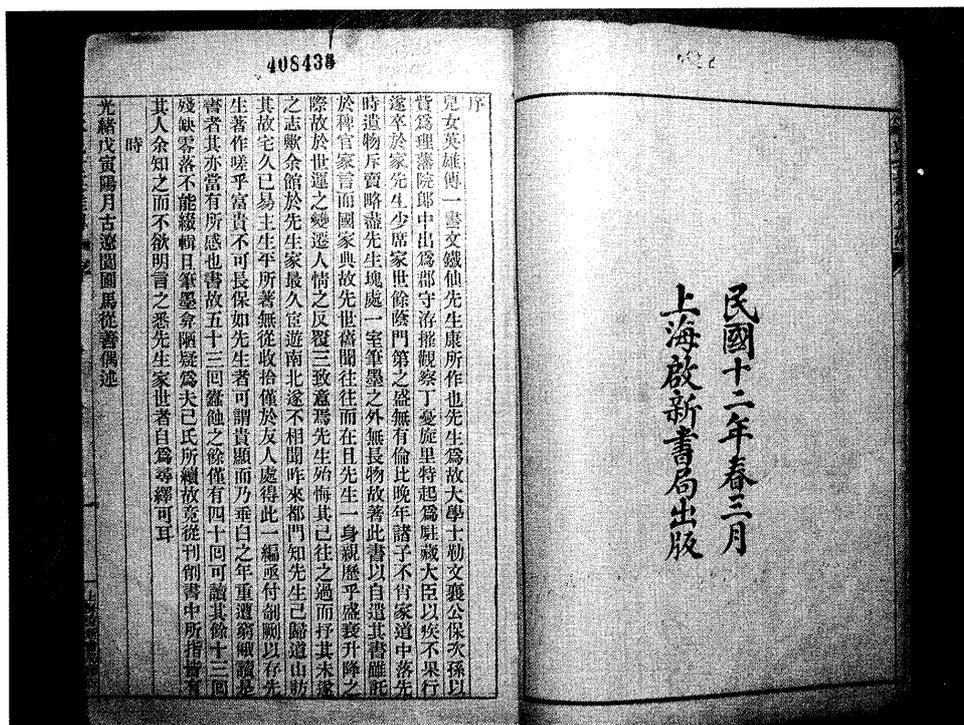
(3) 『兒女英雄傳評話』四十回

京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 光緒六年歲次庚辰孟秋校字 木活字書扉(裏)



(4) 『繪圖兒女英雄傳』四十回

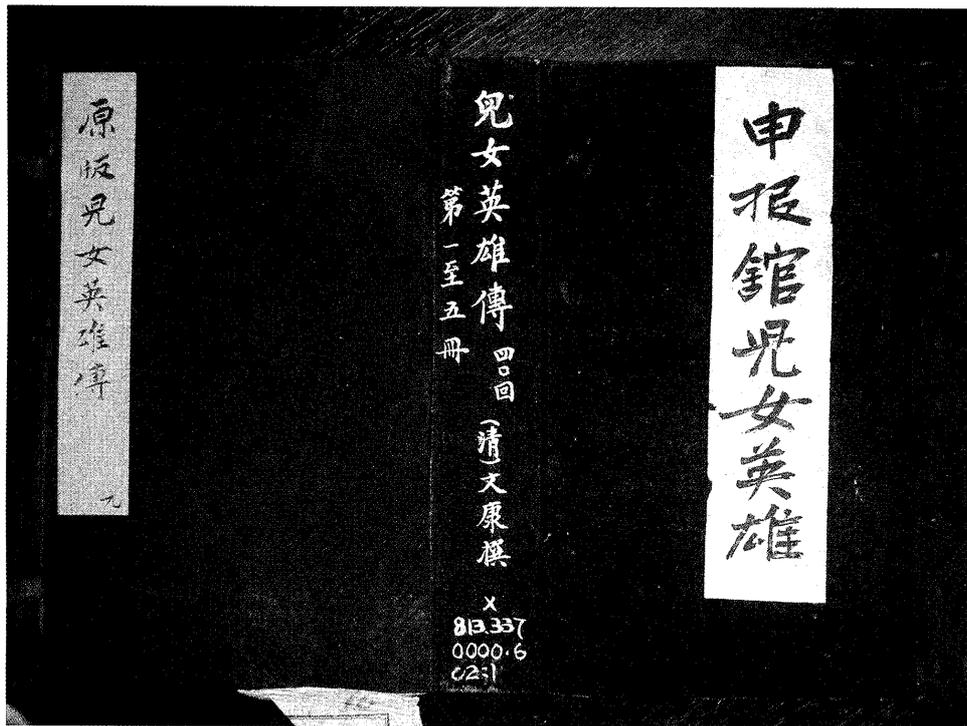
第一回(繪圖)



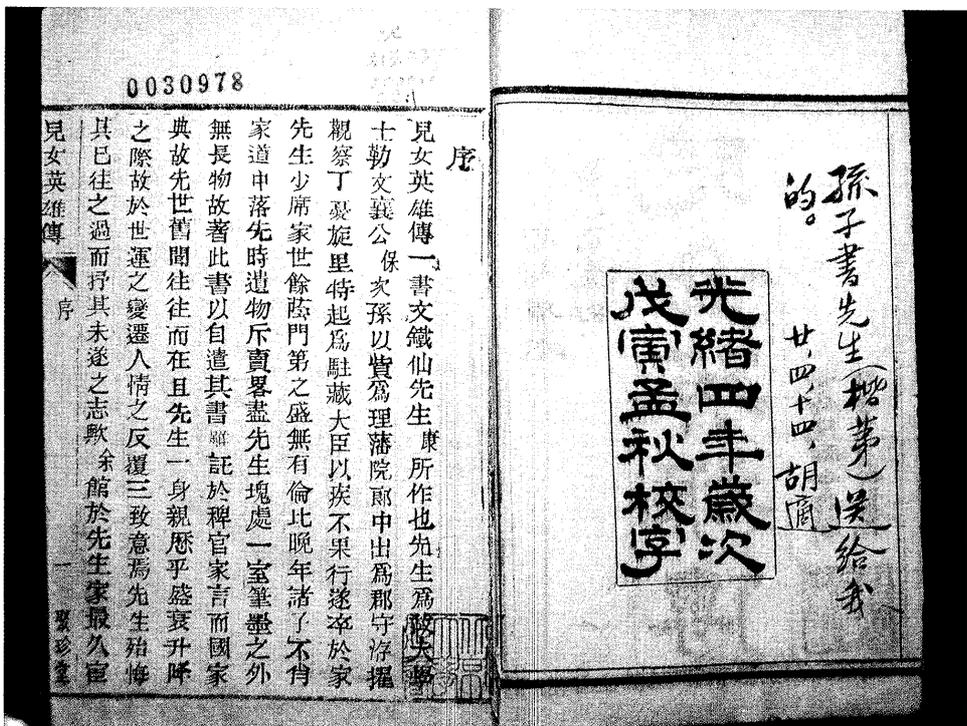
(5) 『全圖足本正編兒女英雄傳評話』正編 十二卷 四十回  
上海啟新書局出版 民國十二年  
書扉（裏）



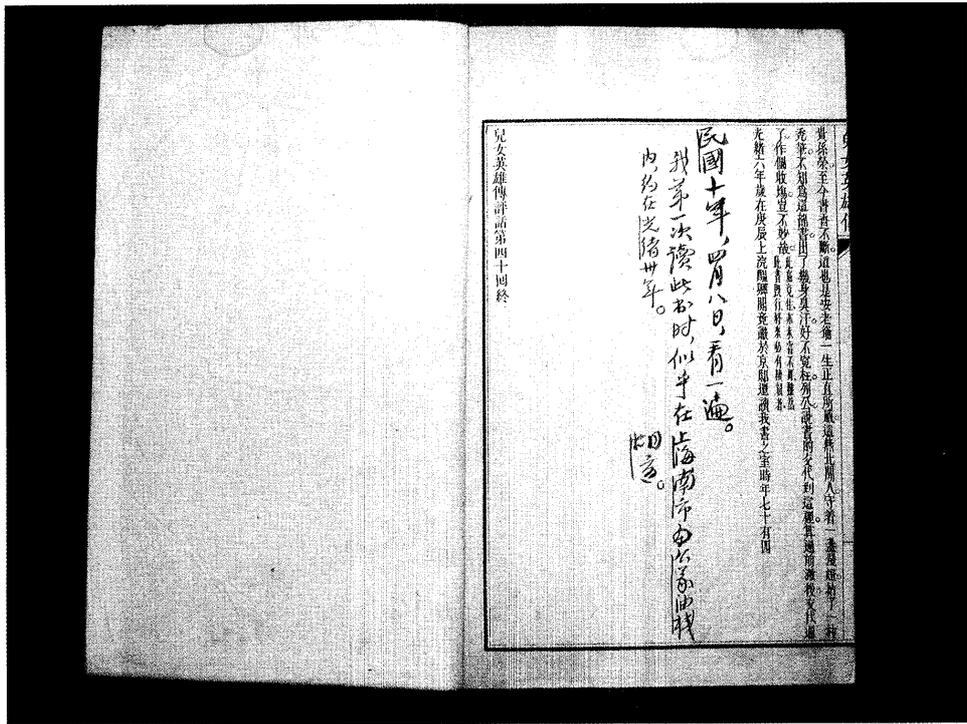
(7) 『繪圖正續兒女英雄傳』四十回  
首回



(8) 『兒女英雄傳評話』四十回  
 京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 光緒四年歲次戊寅孟秋校字  
 帙 (元)



(8) 『兒女英雄傳評話』四十回  
 京都隆福寺路南聚珍堂書坊發兌 光緒四年歲次戊寅孟秋校字  
 書扉 (裏)



(9) 『繪圖評點兒女英雄傳』四十回  
光緒戊子年四月上海蜚英館石印  
最終葉